

春はそこまで、学年のふり返いを！

早いもので、明日より2月となります。1月は、校内書き初め展、5年生フローティングスクール、給食週間、校内かるた会、漢字検定を行ってきました。1月半ばよりインフルエンザが流行しています。ご家庭におきましても、帰宅後の手洗い、うがいを励行するなど予防をお願いしたいと思います。

さて、今年2月4日(月)が「立春」です。暦の上では、春になります。少しずつですが暖くなり、木々の芽も少しずつ膨らんでいきます。生き物も春に向けての準備を始める時期です。「立春」「立夏」「立秋」「立冬」と季節の変わり目がありますが、その前日を「節分」と言い、江戸時代から「立春」の前日(2月3日)だけを

「節分」というようになったそうです。ある意味、1年の始まりと、終わりということもできます。「節分」には、家から鬼を追い払うために、豆まきをするという伝統行事があります。「鬼は外、福は内」という掛け声も出しながら、1年無事に過ごせますようにという願いを込めて、家族みんなで豆まきをされてはどうでしょうか。



2月は、一年間お世話になった6年生に感謝する「6年生を送る会」が27日(水)に行われます。各学年が、工夫を凝らした出し物で感謝の意を表してくれることでしょう。



また、翌28日(木)にはブルーメの丘に新しくできる「Alps Gym」のオープンセレモニーに全校児童を招待していただき、一曲歌を披露して花を添えることになりました。地域の学校として栄えることと喜んでいきます。これらの行事を通して、1年間の学習のまとめをし、3月の卒業式に向けて全校あげて準備を進めていきたいと考えています。

2月 『思考の整理学』から

外山滋比古さんの『思考の整理学』という本があります。友人に勧められて、少しずつ読んでいます。そこに、「思考を深めるキーワード」がいくつか紹介されています。その中に、「声に出してみると、頭が違った働きをする」というのがあります。

「声で考えるのは、現代人においても決して見捨てたことではなかろう。書き上げた原稿を読み直して、手を入れる。原稿は黙って書くが、読み返しは、音読する。そして、もし、読みつかえるところがあれば、必ず問題がひそんでいる。再考してみなくてはならない。沈黙の読み返しでは、たいていこういところを見逃してしまう。」とあります。

- ・声は目だけで見つけることのできない文章の穴を発見する。声は思いのほか、賢明なのである。
- ・声にすると考えていることが純化される。

学校では、国語の学習の一つに音読があります。書かれてある文章を自分の声に出して読むことにより、その内容が自然と自分の体の中に擦り込まれていきます。私たちは、自分が学習したことを、自分の声に出して確かめる作業が必要であると思います。目だけで追っていると、大事なところを見落としてしまう危険性があります。問題文でもつい大事なポイントを飛ばしてしまうということもあります。ぜひ、声に出して、自分の目と耳で確かめる、そのような慎重な作業をしたいものです。

